

令和7年度 松本市青少年問題・いじめ問題対策連絡協議会 議事録

1 日時

令和7年9月18日（木） 午後1時～午後2時30分まで

2 会場

松本市立博物館 講堂

3 出席者

(1) 出席委員

臥雲市長（会長）、曾根原委員（副会長）、倉田委員（田中委員代理）、櫻井委員、大宮委員、横井委員、藤升委員、渡邊委員（手塚委員代理）、西林委員、BRETTMAXWELL 委員、中村委員、宮林委員、田多井委員、一ノ瀬委員、赤井委員、村山委員、上條委員、北川委員、永塚委員、西村委員、西村委員、野澤委員、東本委員、中村委員、小林委員、辻委員、犬飼委員

（29名中上記27名が出席し、過半数の出席があるため、松本市青少年問題・いじめ問題対策連絡協議会条例5条2項の規定により、会議成立）

(2) 事務局・関係課

ア 事務局 こども若者部長、こども育成課長、こども政策担当係長
イ 関係課 教育監兼学校支援室長、こども福祉課長、若者参画課長、教育政策課長、食品・生活衛生課長

4 会長あいさつ

皆さんこんにちは。

各団体の皆様におかれましては日頃から子どもたちへの支援ご尽力をいただいておりますことに、まずもって感謝を申し上げます。

この会議は、青少年やいじめ問題の総合的な施策の調査の他、関係する機関や団体の相互の連携を図ることが目的の会議でございます。

現在の日本におきましては急速に少子化が進み、松本市におきましても各地域で子どもの数は減少傾向でございます。そうした中で時代に合わせた対応が求められるところでございます。

家族の形が変わり共働き子育てが主流となり、家庭による教育力や体験の格差の問題や、子どもたちの長期休暇あるいは放課後の過ごし方が変化しているなど課題と向き合っています。

さらに SNS を始め、コミュニケーションの手段が多様化していることで、子どもたちが何をしているのかということ、私達大人1人1人が把握しづらいという状況にもございます。こうした状況の中で子供に関わっていく大人として、改めて皆

様と認識を共有して、松本の子どもたちの健全な育成を図っていくために、現在松本市が実施している事業の報告を行い、そして、皆様方からご意見をいただく場でございます。

どうかこれからも松本市の子ども教育の施策の推進を図っていくために、よろしくご支援ご協力をお願いいたします。

以上でございます。

5 議事

【会長】

これより会議の議長を務めさせていただきます。

会議は概ね2時30分までに終了したいと考えておりますのでご協力をよろしくお願いいたします。

報告につきましては、事前に各委員に資料をお送りしておりますので、担当課から簡単にご報告をいたします。

初めに報告事項（ア）青少年問題および子供の権利推進に関わる取り組みについてから、（キ）青少年に関わる薬物乱用防止啓発事業についてまで、事務局から順番に説明をお願いいたします。

なお質疑につきましては報告事項の説明後に一括してお願いいたしますのでご協力よろしくをお願いいたします。

《事務局資料に基づいて説明》

【会長】

ただいま6つの関係各課から松本市の事業、施策の報告をさせていただきました。今ございました報告につきましてご質問、ご意見のある方は挙手の上でご発言をお願いいたします。

特段ないようでございますので、次に松本市以外の他の団体からの報告事項が、ございますでしょうか？あればご発言をお願いいたします。

特段ないようでございますのでこの後全体に関しての意見交換に移らせていただきます。

青少年の居場所あるいはいじめや不登校の実態をこういったことについての松本市からの報告をさせていただきました。

そうしたところも踏まえまして、それぞれの委員の皆様から現在、お気づきになっていることあるいは共有をしておきたい情報などを、それぞれのお立場からの発言をいただければと思っております。

いかがでしょうか？

【会長】

それでは私の方から一つ問題提起をさせていただきます。

松本市におきましては、今年度から来年度にかけまして、中学校の部活動の地域移行地域展開を学校現場そして関係する団体の皆様とともに進めさせていただいております。今年度中に休日の部活動を移行する。そして来年度中に平日の部活動も移行するということで、進めているところでございます。

この部活動の地域展開というのは、中学生にとりまして、今までの放課後の過ごし方、休日の過ごし方、少なからぬ変化があるわけでもございまして、それに対しては学校現場だけではなく様々な面からの目配り、あるいは対応ということが必要となってくるわけであります。

学校家庭地域が一体となって中学生を支えていく。中学生のスポーツや文化の活動を支えていくということが必要でございまして。

中学校長会の今日は代理で来ていただいております渡辺さん。少しこの中学校の部活動の現状について、お話をいただけないでしょうか？

【渡辺先生】

はいご指名いただきましたので中学校の部活動の現状ですかね。松本市の推進計画にしたがって、今市長が言われたように、本校でも今年度中に土日の部活動はなくして、来年度中に平日の部活動をなくす方向で進めております。

それにあたって、地域クラブが立ち上がってきてるんですけども、そうしたクラブに所属できるよう、要は、私は菅野中学校なんですけど、近くに子どもたちがやりたい、活動したいクラブが立ち上がって、うまくその競技にクラブに入れている子どもたちもいれば、まだなかなか居場所が見つからず、ギリギリまで学校の部活動で活動をしているっていう状況であります。

ですので、学校では部活動があるので顧問がついて活動を行う。顧問はもちろん学校としても、例えば今年度は新人大会が秋にあるわけで、それが終わったら土日をなくしますよってことは言えないんですよ。なくしたら土日の居場所がなくなってしまうので、それぞれの競技だとか、子どもたちの状況を見ながら、なるべく子どもたちがやりたい活動を、地域であるとか、近くのクラブ活動にスムーズにできるように苦労しているっていう状況が現実であります。

ただ、そのゴールが決まっているので、情報発信は常にするっていう状況で苦しい現状があるっていうのが、なかなか具体的にお伝えできなくて申し訳ないんですけど、そういう状況になります。

【会長】

はい。ありがとうございます。

この中学校部活の地域展開は、一番の出発点は、先生方の日常が極めて多忙で、子ども1人1人に対して授業を中心とした対応に様々な限界が見えてきて、特に部活動を

休日まで含めて、事実上のボランティアに近い形で関わっていることに限界がきていること。また、松本市内だけでも小学校ごとに、非常に人口の偏在、子供の数の偏在が明らかに進んでいて、部活というやり方で、子供たちにスポーツや文化の活動の場を提供できている学校と、限りなくそれが難しくなっている学校、地域というのがある中での対応を全国的に行っていく。松本市としてもそれは進めていこうということでもありますが、今もこちらございましたが中学生にとって、放課後の居場所というもので、部活はかなりの意義として持っていたわけでありますので、それに代わる居場所というものが、この地域クラブあるいはクラブにとどまらない様々な形で、家庭でも学校でもない居場所というものを、今私達が皆さんとともに、提供していけるかどうか問われているというふうに考えております。

この部活からちょっと話を立ち上げましたが、改めてこの子ども若者の居場所という観点で何か今、皆様方が直面している課題や、あるいはこうしたことが必要ではないかといったお考えがあれば、ご意見をいただけないでしょうか？

いかがでしょうか？

【薬剤師会 田多井委員】

部活からクラブチームに移行するということだと目的はよくわかります。ただ、その子供たちの居場所ってということになりますと、例えば、能力のある子とそうではない子ってやっぱりいると思うんですよ。

それからその競技は好きだけど、別に大会に出るのが目的ではないっていう子もいると思うんで、いろんな目的でそのスポーツをやってる子の機会に差がないように与えていただけるようなことが必要ではないかと思います。ちょっと具体的にどうしようってことじゃないんですけども、言葉として申し上げておきます。

よろしくお願いします。

【会長】

ありがとうございます。

今、田多井委員ご指摘の目的や能力に応じて非常に高いレベルでスポーツ、あるいは文化活動を行っていきたい人たちと、機会はそれほど増やさなくて自分の嗜好性に応じてやっていきたいと、やはり幅を広げていくということが今回の目的の一つでもございますし、一方でこれが地域の問題とともにするだけの幅を広げていくためには、指導者や、あるいはその受け皿となる組織や団体というものを大きく広げ、増やしていかないと実現できないものでございます。

今、田多井委員からご指摘のあった観点は、非常に我々も重要なものだと思って取り組んでおります。またそれぞれの立場でご協力願えるところは、ご協力願えればと思っております。

その他いかがでしょうか？

【主任児童委員 赤井委員】

今の中学校部活の地域移行についてですが、地域の方に全く移行できない吹奏楽のような部活については、指導者の面でとか環境についてとか、楽器などはほぼ学校お持ちのものを、子供たちが借用して行っている状態が多いと思うんですけど、そこら辺のことについてはどのようにお考えかちょっと伺いたいです。

【会長】

ありがとうございます。

今、赤井委員がご指摘になったあの吹奏楽というのが、実は一番スポーツ文化活動の中で、学校が基本中心にならないと難しい分野だと私達も認識をしております。

そして楽器を移動させるだけでも非常に時間や労力がかかるといった課題がありますので、この吹奏楽については、従来通り学校の施設は使えるようにする。そして、できる限り学校所有の楽器について引き続き使えるようにするということを基本に考えていかなければいけないと思っております。

そのためには、従来の学校部活と地域クラブの一番の違いは、その学校に通っていない子どもたちにも参加の間口を広げるということであります。今はその学校に通ってる子どもたちだけでその部活は構成するということですが、例えばですが、非常に熱心な中学校の吹奏楽部に、別の中学校に通っているお子さんが行きたいと言えば、それは行けるようにしようというのが基本でございます。そうしますと放課後に吹奏楽の活動をしてもらうときに、学校の施設を不特定多数の学校の関係者以外の人たちが、出入りをするのが前提となりますので、今の学校施設の教室、あるいはその付帯施設の管理をきちんと行う必要であるということで、今年度から旭町中学校を一つモデル校として、課題の抽出のための実証的な取り組みを行います。その上で、課題を抽出したものを、他の中学校にも展開できるようにということで取り組んでおります。

また、多かれ少なかれ他のスポーツの活動につきましても、特に平日については、学校の施設を使用する、利用するということができるようにする方が、子どもたちにとって、あるいは指導者の中には、学校の先生が引き続き指導者になっていくんだという方もいらっしゃると思いますので、この学校の施設を学校の子供たち以外の子供たちの出入りも念頭に、どのように開放していくか、そのためのルール作り説明も含めてどうしていくかということが、非常に重要なポイントで取り組んでいかなければならないと考えております。

よろしいでしょうか赤井委員

【赤井委員】

はい、ありがとうございました。

特に吹奏楽の場合は、変な言い方しますが、人気の先生っていうか、この先生に教わりたいたいという、そういった偏ってしまうこともあるかと思います。

学校の枠を外してっていうことですので、そこら辺の配慮も今後していただければと思います。

以上です。

【宮林委員】

あの質問も兼ねてなんですが、診療の場でお母さんたちから出る言葉なんですけど、部活がなくなるとお金がかかるとおっしゃる方が多いんですね。

クラブチームに入らなきゃいけないのかなとか、部活で例えばさっきおっしゃったように、スポーツを楽しみたくてうちの子入ったんだけど、これで部活なくなつて、やりたい子だけそういうチームに行くんだらうかとか、全然そのお母さんたちに見えてないのかなっていうのと、私自身も有料なのか、無料なのかっていうところがはっきりわからないので、その辺を含めて教えていただきたいなと思います。

【会長】

ありがとうございます。十分周知が進んでいないところがございますが基本的に有料になるわけであります。

今まで学校の部活で学校の先生が指導者としてやってる場合は、指導者の方は特別そこで指導料を受け取ることはございませんでしたので、それが今度は外部の学校の先生も含めて外部の指導者として向き合っていくということですので、基本的には有料ということになります。今よりは一定の経済的ご負担を家計にお願いをするということがまず大前提でございます。

その上で、そこに先ほどのいろいろなレベルの受け皿をたくさん作っていく過程ではございますが、比較的経済的負担が低く参加できるものから、かなり本格的な現状でもあるようなスポーツクラブまでということになります。

松本市としては所得の低いご家庭に対しての経済的支援ということの制度化はスタートいたしました。一般家庭の経済的負担については、今まで民間のクラブにそれぞれ通っていただいたり、あるいは小学校の時代にスポーツなどの習い事をしていたいただいたり、その部分ある程度の経済的負担が中学校の3年間についてプラスになるということとはございます。

【宮林委員】

ありがとうございます。

能力のレベル差によって受皿っていうお話も先ほどご質問の状態としてあって、ただ能力あって経済力がないうちの方はどうしたらいいのかなと、本格的にやるところはそれなりにお金がかかる。でもその子には非常に能力があるけれども、うちにお金がないから行けない。学力と一緒にですね。やっぱりそこに貧困、貧富の差が、格差がどんどん広がっていくことが私はちょっと恐れているので、能力があってやりたいっていう子に対して、その家庭への援助であるとか、基準はかなり難

しいと思うので、こういう能力でこういう所得の方にはどのぐらいとか、奨学金制度じゃないですが、そういうところまで少し支援していただけると子どもたちがやりたいことができて、片親家庭もだいぶ増えてますので、そのために出してやれなかったみたいな思いをする親御さんが少なければいいなと思いますのでよろしくをお願いします。

【会長】

ありがとうございます。

非常に重要な御指摘だと思っております。国レベルから自治体レベルまで部活の地域展開だけに限らないかもしれませんけれども、どのような経済力の家庭に生まれ育ってもチャンスが公平に開かれている社会。これは私達が子供の頃から、日本というのはそういう国だということで生きてきたというように感じております。それがだんだんと21世紀に入って、どうしても二極化と言われるような状況が進む、あるいは中間層と呼ばれるところが細ってきているというのが、今の日本社会の現実だというふうに思っております。それを放置して仕方がないということに留まらないように、今回この中学校の部活の地域展開については、そうした視点を大事に、いただいたご指摘を踏まえて、来年度以降、今度は平日も移行していくこととなりますので、松本市教育委員会とともに検討していきたいと思っております。

ありがとうございます。

その他にいかがでしょうか？

【田多井委員】

薬剤師会で薬物乱用防止活動を取り挙げていただいてありがとうございます。

私は実は4年ぶりにこの席に戻ってきました、2009年から12年ぐらいこの委員を務めさせていただいたんですけど、その間にこども育成課の皆様のすごい努力で今日の薬物乱用防止活動松本市のモデル作られております。松本市だとこども育成課さんの方でコーディネートしてくれるので非常にやりやすいですが、僕よく周辺の市町村から県内に呼ばれて行くことがあるんですけど、二、三年前にこういう事例があったんですね。

とある中学校に頼まれて、お話をしに行ったら大変好評を得て来年もぜひお願いしますということで、養護の先生と打ち合わせしていつなら空いてますかと、6月のここをお願いしますと、日程まで決めて新年を迎えたんですが、その翌年に養護の先生が転勤で変わられたときに、引き継ぎうまくできてなかったらしくて、日程だけの引き継ぎがあったんですね。資料には、「講師田多井打ち合わせ済み」と書いてあったんですけどもその先生がもう6月にすぐやんなきゃいけないっていうので慌てて、学校の学校薬剤師の先生に相談して交渉して、別に手配されてしまって、当日ブッキングというちょっと慌てることになりました。

そのとき何が問題だったかっていうと、僕が前の日に学校に連絡をして「田多井」

を名乗って、「予定通りですか？」とか「はい予定通りお願いします。」当日も「薬剤師の田多井です」と「お待ちしております」と案内されようとしたところ、新しい先生が来たもんで、「どういうことですか？」と、要するに、学校側で誰に何をお願いしたかっていうのを、先生方の共通の認識がなかったんですよ。あと誰が来て誰がお話をするっていうことしかなくて、あの新しく手配された先生も資料いっぱい持って、その地域で第一院長先生だったんですけど、配られる予定の資料には田多井って書いてあるですよ。一体誰をどこに案内するつもりだったのかと、わかんなくて、ちょっとそこで僕も腹立てたわけじゃないんですけど、あの薬剤師ってのは学校に入り込めるような、あの状況がいいとは思えなかったんで、その年に一応、そちらの年の薬剤師会の先生にも事情をお話したし、長野県の養護教諭の会でもちょっと意見として申し上げた。そのようなことがあります。

そのとき思ったのが、学校の先生がよくあるんですけど、これはどっちか中学生じゃなくてね。実は高校の先生にすごくあるんですが、僕の勝手な思い込みですけど、目的がないんです。やらなきゃいけないからやるっていう、結構ベテランの先生の中に多くてですね、養護の先生は一生懸命なんだけど、学年の担当の先生がその認識がないとかですね。あと養護の先生が薬剤師会に依頼して、教頭先生が保健所の先生が予約してブッキングしましたとか、そんな経験がありますので、ぜひ目的は何かっていうところから入っていただいて、この松本市モデルができちゃってるんで、中には「松本市からやれって言われてるからただやってます。」っていう学校がありますので、ぜひ先生方大変にご苦労されてると思うんですけども、目的はやることではないです、実施は手法であって目的ではないです。しっかり子供たちのために啓発しましょうっていう認識の上で成り立ってるモデルだと思いますので、意見として申し上げておきます。よろしくお願いします。

【会長】

ありがとうございます。この薬物乱用防止啓発事業についての目的を改めて、他の市町村の事例のようでしたけども、松本市としても、あるいはそれぞれの学校現場の皆様にも、改めて意義を持つと確認していただいて取り組むように努めてまいりたいと思いますし、これは他の事業についても言えることだと思います。ご指摘ありがとうございます。

その他にご質問ご意見ございましたらお願いいたします。

今中学生だという話でしたので、小学生の学童年齢の子どもさんのことで何かお気づきになるところがございましたらお話をいただければと思うんですが、小学校長会の藤松先生、お気づきところがあたらご発言をいただけますでしょうか？

【藤松委員】

ありがとうございます。松本市の小学校長会の藤松と申します。

まず初めには本当に子どもたちの健やかな育ちのために、行政を初め各関係機関

の皆様から地域の皆様のお話をききましたが、いろんな施策ですとか、対応していただきまして本当にありがとうございます。

学童期ということでしたので、小学校は先ほどいじめ体罰のアンケートのことも出てきております。本校でもアンケート等を取りながら、やはり小学校本当に日々、結構トラブルあるんですよね。その中でやっぱり相手の気持ちを自分の中でうまく解釈したり折り合いをつけていくとかね。また仲直りするための、ちょっとごめんねっていう勇気をまたそこで学ぶとか、やはりそういったことが、人と人が直接触れ合う中でしか学べないと思っております。そういう意味で、いろいろ先ほど施策を見させていただいた中で、居場所がね、いくつもあることを大変嬉しく思っております。そういった中でやはり多くの方々と触れ合う中で、子供たちが豊かに心を育てていくことができるものと思っておりますので、本当にありがとうございます。

特にここで問題点ですとかちょっとご意見ということはございませんが、そういったことを今後もぜひ学校も頑張っていますので、ここにあります地域やいろんな関係機関、そういったところで子どもたちが多くの方々と触れ合って学ぶことができたらと思っておりますので、今後もよろしくお願いいたします。

【会長】

藤松委員ありがとうございます。

子供会育成連合会の永塚委員のこども会目線から見て何かお感じになることがあれば伺いたいのですが、いかがでしょうか？

【永塚委員】

育成会単独ではできないことなんですけど、その子どもの居場所作りという意味では、もっとなんていうか、広く考えて、昔の子どもたちは地域で年長者と年少者一緒になって遊んでいた。そういう形の子供の居場所作りができないかなと今考えてるんですが、そうすると地域としても他地区の子供たちを受け入れなきゃいけないとか、それから子供だけにしておくのはちょっと難しいから、やっぱり大人、あるいは年長者が加わって、町会の公民館を使って居場所作りみたいなのができないかなと考えてるんです。ちょっと今の子どもがそれができるのかどうかって今確かめようかなという段階です。

【会長】

ありがとうございます。

今、より地域で居場所といいますか、子どもと一緒に時間を過ごせるような、そういう環境ということだと思いますが、松本市が昨年来そこには重点的に力を入れて進めたいと思っておりますことの一つに、今までどちらかと言えば年配の方が中心にいろいろなサークル活動などをされていた、35地区の地区公民館につきまして、できるだけ中高生などが自分のうち以外で時間を過ごす場所として使ってもら

えるような場所として開放し始めておりまして、35 区のうちのかかなりの公民館はその子どもたちが立ち入りやすい環境作りに努めているところでもあります。

そのことが一つ、今ご指摘いただいたような観点の地域の居場所、またそれに関わる大人がどのような関わり方をしていけるかという意味での居場所ということの一つ対象になっていければなと思っているところでもございます。

その他にご発言いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

秀峰の MAXWELL 校長、今日私は初めてお会いするので、どのようなお考を持っているかをお聞きしたいと思って、お話をお聞かせいただければと思います。

いかがでしょうか？

【MAXWELL】

はい。松本秀峰中等教育学校の MAXWELL でございます。

私は自分の出身の国からしばらく離れているものですが、ただ今でも私の国に不登校問題はありません。それから学校に部活制度も昔からありません。完全にクラブチームの制度になってます。

その立場から日本の現在、松本市の現在の状況を見てみますとですね、感想だけですけれども、データの根拠はありませんが、まず感想としては、支援活動は非常に重要です。ただ基本も何ですが、課題に向き合わなきゃいけない。なぜ日本の子供たちは人口減小になっているにも関わらず、引きこもるっていうか登校できない問題が増えている。支援活動は非常に重要です。ただそれはってからです。

例えば病気、全然別な話ですけれども、病気の話例として言います。例えばみんなは糖尿病になってから、良い薬を買いましょう。いい薬を提供しましょうって同じ話だと思えます。

私は子どものとき、十分にいじめられましたけれども何とか登校できました。自分も自分周りの人たちと違う意識だからこそ自分の国をでました。ただ、重要な育成っていうかな、教育といいましょうか？人権教育とともに、多様性を尊重する。ですから、要するにあんたはっていう言い方はしなくていいです。相手を定義するというのは、ラベルを付けるとか、決め付けるとかそういうのはしなくていいです。その教育を本当に幼児の時期から始めればよいかと思えます。

もう一つは、自己肯定感作り、余計なこと言われても傷つかない。自分の力を信じる。自尊心作りが非常に重要です。いじめはどこの国にもありますが、いじめられましても、何とか対応できる乗り越えるといった対応、自分の中で対応できる。そういう技術というか能力というっていうのも、本当に若い頃、幼児教育から始めればなって考えております。

それから部活制度の問題ですけれども、私子供のときですね、6 歳から近くのクラブチームで、私の父親はサッカーのコーチだったので、支援は助成金的な支援は重要ですが、問題はインフラだと思います。私の国の非常に小さな町におき

ましても、砂漠にある小さな町とか、ジャングルにある小さな町にもクラブチームは必ずあります。ただ行政は支援してるのは、助成金的な形よりも、施設ですか。あるいはインフラ整備に関しては頑張ってると思います。本当にチャンスを与えるインフラ作りに関しては、十分意識していると思います。

最後ですけれど、少しみなさんが意識しておけばなという問題ですけれども、今アメリカで起きている問題ですけれども、子供たちはスマホ、毒ですね。SNS アルゴリズムの問題です。要するに喧嘩すると、X が多くなる、儲かるわけですね。そしたら SNS アルゴリズムに乗って、たくさんの特に中高生の女子は鬱になってる。それから男子はひきこもって、イライラが溜まって暴力的になってる。こないだの殺人事件なんか、向こうは拳銃があります。その問題がありますけれども、やっぱりそうそのような問題は、そのうち日本にも来るかなと思いますので、どういうふうに対策するか、ちょっと放置しておけばかなり大きな問題になってるから、私達は気づかず、という心配もあります。

【会長】

ありがとうございます。

MAXWELL 委員から 3 点ほど重要な指摘をいただいたというふうに思っております。

一つはやはりなぜ不登校が増えているか。といったようなこと等の対処療法ではなく根本的なところをやはり問い直す必要があるだろう。これは今、松本市の教育委員会でも学校に行けない子供たちの受け皿を、多様な受け皿を増やしていくということをする一方で、学校に行かない子供たちが増えている学校の問題点っていうのは、どこにあるんだろうということを問い直さないといけないということで、今、教育長初めそうした視点で学校改革にも取り組んでいただいております。改めて根本に立ち返った対応に向けやらなければいけないというふうに思っております。

また多様性の尊重、そして自尊心や自己肯定感の醸成を行うことを、やはりこれは本当に改めてどの国であっても、重要な子どもを育てていくという意味で最も重要な部分だというふうに私達も認識をしているところであります。

そして部活動についての施設インフラの充実、松本市としては、それを学校の施設というものをやはり起点において基軸において、充実をさせていかなきゃいけないというふうに思っておりますので、先ほども少し触れましたが取り組んでまいりたいと思います。

最後にこのアルゴリズムの問題というのは、私達大人も十分に認識ができてない部分ではないかなという自分も含めて思っているところであります。知らず知らずのうちに自分の嗜好性のみに情報が偏っていく。そのことに十分自覚的でないと、非常に排他的な思考や行動に繋がっていくということで、特にそれは子どもにおいてはより深刻な状況ということご指摘をいただきました。ぜひ、これも大きなテーマで深刻なテーマであります。今日お集まりの皆さん、他の様々な視点をいただきながら考えていきたいというふうに思っております。

その他にご意見という方がいらっしゃいましたらご発言をお願いいたします。

よろしいでしょうか予定した時間になりました。

今回いただいたご意見、またこれからも、お気づきのことがありましたら、関係する部署にご意見をいただいて、日々変化し続ける子供や若者、青少年を取り巻く状況にできる限りの確に対応していきたい思っておりますので、どうか引き続きのご協力ご支援をお願いいたします。